

2014年4月17日

山形県知事 吉村美栄子 様

## 最上小国川ダム問題に関する抗議と要請

最上小国川の清流を守る会

共同代表 高桑順一 川辺孝幸 草島進一

水源開発問題全国連絡会

共同代表 嶋津暉之 遠藤保男

### 抗議と要請――

私たちが凍結を求めた第2回協議会が本年4月12日に開かれました。このことに強く抗議致します。

あわせて、この日の協議会で小国川漁協がダムなし治水を検討するために有識者を委員として招聘することを提案しましたが、県はこれを拒否しました。こともあろうにシンポジウムの開催すら県は拒否しました。知事自らも、記者会見において小国川漁協の2つの提案を拒否しました。

治水と内水漁業振興の両立を図っていきたいとする知事が、小国川漁協の2つの提案を拒否したことはまったく理解ができません。山形県はこれまでの経過の中で最上小国川ダムによる治水が漁業へ悪影響を与えることがないとの自信を持たれているようですが、それへの異論を持たれている専門家がいることも事実です。小国川漁協が提案し続けている「ダムによらない治水」について貴県が公開の場で検討会を持つことを強く求めます。

貴職が小国川漁協の提案を受け入れられることを求めますので、4月30日までに回答をお寄せ下さい。

参考：山形県の説明への疑問事例

- 1：ダムによる高水制御は有効範囲が限定されることが検討されていない。
- 2：最上小国川ダムによる調節効果が及ぶ範囲が極めて限られていることが考慮されていない。
- 3：最上小国川ダムによる主たる治水効果は赤倉温泉地域に限定されている。そうであるならば、河道改修で充分対応できることがなぜか意識的に無視されている。
- 4：「河道改修に対しては下流域から行うので朝倉温泉地域の河道改修は約100年後」としているが、これは全くのウソ。洪水被害が発生したところはその対策として河道改修が実施されている。それは上流域であっても河道改修範囲が狭い改修であれば、下流域への影響は殆どないからである。
- 5：「穴あきダムであるから、長期の濁水はない」としているが、これもあまりに実態を無視している。ダム上流域で山腹崩壊が生じたならば土砂がダム上流域に堆積し、その堆積土砂が完全に流出するまで白濁が続く。
- 6：一番の問題は、赤倉温泉地域において小国川が活用されていないことである。小国

川のすばらしさを活かした温泉街造りは治水対策としても有効である。そして漁業振興への道につながる。最上小国川ダムによる治水からダムによらない治水へと転換することで、温泉街興し、漁業振興、赤倉温泉地域の治水目的の3つが満たされるのである。

連絡先：

最上小国川の清流を守る会：

新庄市城西町 5-37

電話 0233-23-0139

水源開発問題全国連絡会：〒223-0064 横浜市港北区下田町 6-2-28

電話・FAX 045-877-4970

メール [yakkun@mvd.biglobe.ne.jp](mailto:yakkun@mvd.biglobe.ne.jp)